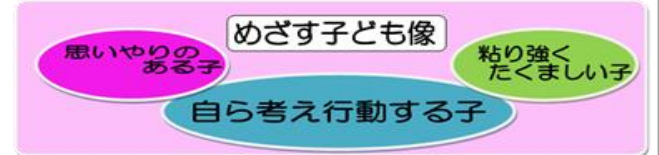




めざす学校像

互いに認め合い、高め合う学校
みんなが安心できる居心地のいい学校
開かれた学校（学校・家庭・地域がつながりあうことを大切にしている学校）



平成31年（2019年）1月11日発行・野畑花だよりは、野畑小学校のホームページでもご覧いただけます。http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/nobatake/

① いつもこころに ② ③ ④ ⑤ のびのび 野畑 合言葉 ⑥ ⑦ バリアフリーで 笑顔がいっぱい ⑧ ⑨ 体験 楽しい 学びたい ⑩ ⑪ 計画立てて 報告 確認

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祝い申し上げます。

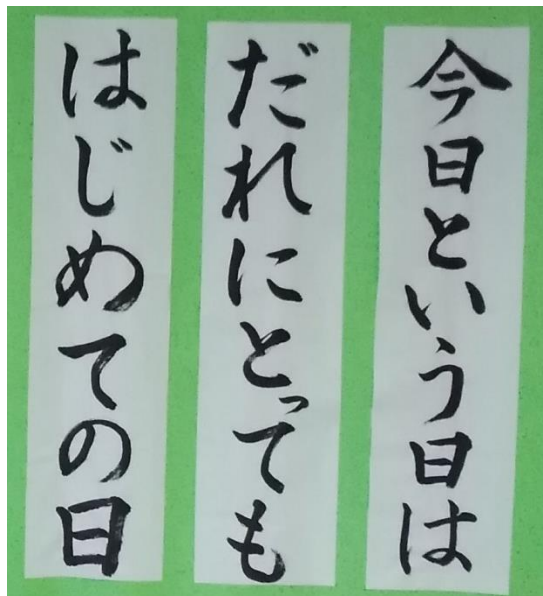
始業式の日、挨拶運動の日でした。朝、通学路のあちこちで、多くの皆さんが子どもたちの登校を見守りながら挨拶をしてくださいました。そして、校門では、校区健全育成委員長の木村さんとPTA生活指導委員長の木村さん（お二人とも木村さんとおっしゃいますが別人です）と一緒に、児童会の子どもたちが挨拶運動に参加しました。始業式でも全校で大きな声で新年の挨拶をしました。



学校では、もちつき大会のときに作っていただいた「鏡餅」と子ども教室で作っていただいた「餅花」と学校の黒松を玄関に飾って新しい年を迎えました。

全学年の子どもたちがそろってこそこの学校です。学校中に活気があふれ、先生たちの足取りがグーンと軽くなって、声のトーンも高くなっています。3学期は、短い学期です。やり残すことのないように、悔いのないように、教職員一同心を合わせ「みんなが安心できる居心地のいい学校」を目指して頑張ります。ご支援ご協力よろしくお祝い申し上げます。

始業式では、もう一つ「今日という日は、だれにとっても、はじめての日」という話をしました。



大人も子どもも、1才だろうと100才だろうと、今日という日はみんなはじめて、みんな何が起きるか不安だしドキドキしている。だから、失敗することだってたくさんあって当たり前。できないことやわからないことがたくさんあるのも当たり前。「できない。」「助けて。」「わからない。」「おしえて。」って、いっぱい言っているんだよ。もし誰かが「助けて」「手伝って」と言ってくれたら全力で助けてあげましょう。「その人のためにならない?」「助けてもらってばかりいると、頑張れない子になるから、甘やかしちゃいけない?」そんなことはありません。助けてもらったことがある人は、人を支えられる人になるんだよ。

昨年10月ごろ、下記のような記事が世間をにぎわしました。本校では、ずいぶん前からいわゆる「置き勉」を認めています。学年で話し合って学校においておく教科書や教具を決めて子どもたちに伝えていますが、それを整理するのがめんどくさくて、机の中のを全部ランドセルに詰め、学校と家を往復している子どもの中にはいるようです。今一度、ご家庭でも子どもたちと話し合う機会を持ってみてください。

文科省が「置き勉」認める通知 重いランドセル解消へ

全国では既に、宿題に使わない教科書を学校に置いて帰る「置き勉」を認めたり、特定の日に持ち物が偏らないよう、数日に分けて持ってくるよう指導したりしている学校がある。通知ではこうした取り組みを紹介し、「必要に応じ適切な配慮」を求めている。文科省の担当者は「『置き勉』を一律に推奨するわけではないが、子どもや地域の実態を考慮し、各学校で知恵を出してほしい」と話す。

子どもの荷物が重くなっている背景には、小中学校の授業時間数の増加に伴い、教科書のページ数も増えていることがある。教科書協会によると、小学1～6年生の教科書は合計6518ページ（2015年度）、中学1～3年生の合計は5783ページ（16年度）で、それぞれ10年前と比べて約3割増えている。ランドセルメーカーのセイバン（兵庫県）が今年3月、小学生の母子2千組を対象に調べたところ、最も荷物が重い日は平均で約4・7キロあり、ランドセルの重さを含めると約6キロの荷物を背負っていた。また、首などに何らかの痛みを訴える子どもが約3割いたという。（朝日新聞デジタルより）

ご存知ですか算数教室

毎週 月・火・木の放課後16:10ごろまで、少人数担当の教師を中心に、北館の少人数教室で算数教室をしています。自由参加です。わからないところを教えてもらったり、宿題をして帰ったりすることができます。